地域で連携する新人看護師研修

雲南市立病院　看護部教育担当次長　前　島　里　子

雲南圏域は，島根県の東中部に位置し，面積約1,100平方キロ，人口約62,000人，高齢化率約34.4％の中山間地であり，雲南市，奥出雲町，飯南町の1市2町で構成されている。

2010年，「保健師助産師看護師法」「看護職等の人材確保の促進に関する法律」の改定により，看護の質向上，医療安全の確保，および早期離職防止の観点から，新人看護職員研修が努力義務化され，同年，新人看護職員研修ガイドラインも策定された。新人看護師研修ガイドラインでは，研修内容と到達目標，研修方法，研修評価等が明記されている。その中で，各施設の特性に適した研修方法の工夫として，新人看護職員が少ない施設や小規模病院においては「他医療機関や研修・教育機関などの外部組織の活用」「複数医療機関が協同で研修を行う」が推奨されている。

2011年度，当院看護部は，ガイドラインに沿った新人看護師研修システムを，病院単独の研修システムとして構築した。しかし，中規模自治体病院では，研修機材を整え維持していく経費的な余裕はなく，自前で研修を行える人材にも苦渋していたため，島根大学附属病院クリニカルスキルアップセンターと連携して研修を行った。スキルアップセンターの保有する機材等の設備や講師を活用できることは，大きなメリットであった。雲南圏域に所在する病院の協同での研修としては，2012年度，町立奥出雲病院と2病院での研修を2年間行った。2014年度には医療法人陶朋会平成記念病院が参加，2015年度には飯南病院が参加し，2015年度より雲南圏域4病院合同での新人看護師研修となり現在に至っている。

新人看護師の採用人数は，1施設1名～6名であるが，合同で研修を行うと，10名前後で行うことができる。ある程度まとまった人数で一年間の研修を一緒に行い，複数で体験を共有することが，新人看護師にとって，不安の軽減と自信につながっている。そして，自施設を離れ，他病院での研修に参加することは，リフレッシュ効果を生んでおり，気分転換にも役立っている。一方，指導者にとっては，指導方法を学習し，情報交換を行う場となっている。他施設の情報をもとに，自施設の状況を評価し組織に発信することで，それぞれの病院での組織体制や，教育体制の変化につなげている。

良いことばかりではない。準備や打ち合わせについては不便さを感じる。院内での単独研修であれば移動時間がかからず，時間や場所等の調整がしやすい。この点については，毎年工夫を重ねているところである。現在は，SNS（social networking service）を利用して細かな連絡を取り合うようにしているが，未だ不十分であり，今後の課題である。

日本では，超高齢社会の到来が予測され，医療看護の質向上が求められている。地域の4病院が合同で行う新人看護師研修は，地域医療を支える人材を育てる仕組みの一つであり，今後も改良を重ねて継続されるであろう。次々に更新される，地域や医療を取り巻く課題や状況に取り残されないように，いや，一歩前を進むことを念頭に置き，医療人の育成に取り組んでいきたい。